

付録5 受信用メールボックスの利用方法についての実例

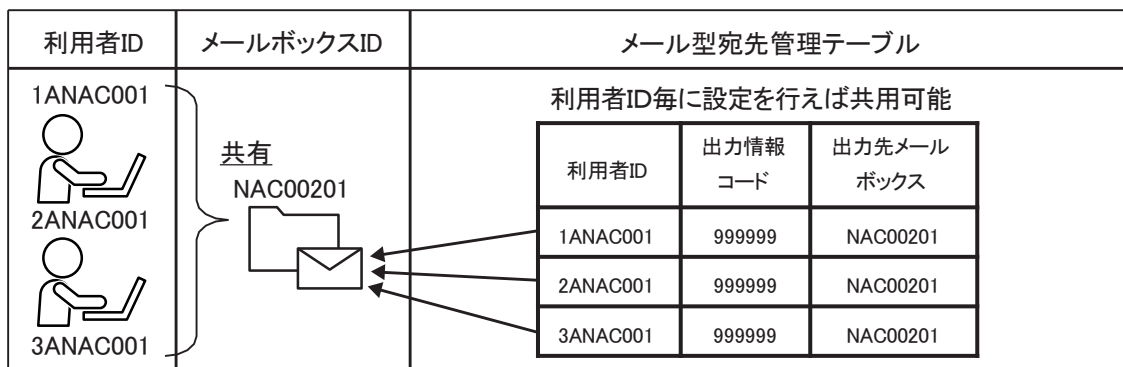
1. 受信用メールボックスの利用方法について

1つのメールボックスIDを共有する利用者は、宛先管理の設定により複数の利用者からの処理結果電文等を同一のメールボックスIDに格納することが可能である。

また、複数のメールボックスIDを保有する利用者は、宛先管理の設定により出力情報ごとに格納先メールボックスを振り分けることが可能である。

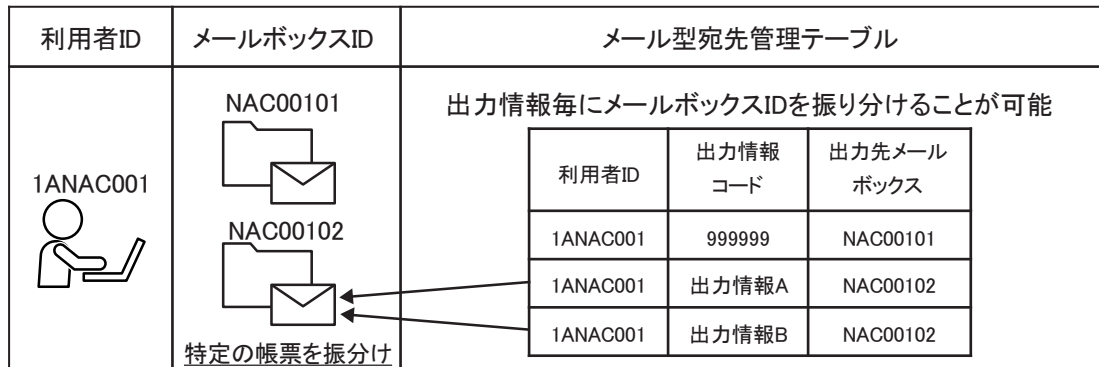
メールボックスの共有の例を、付図5-1、メールボックスの複数保有の例を、付図5-2に示す。

◆メールボックスの共有



付図5-1 メールボックスの共有の例

◆メールボックスの複数保有



付図5-2 メールボックスの複数保有の例

2. 利用者のニーズに応じた受信用メールボックスの利用方法（ゲートウェイ接続の場合）

付表 5-1 必要な受信用メールボックス数

	利用者のニーズ	必要な受信用メールボックス数
パターン1 (A社営業所) 通関部門 保税部門	電文を業務別に分類し、それぞれ別の受信用メールボックスに格納したい。 (通関部門) ①輸出関係業務の電文(INQ型) ②輸入関係業務の電文(INQ型) ③EXC型電文(通関部門関係) (保税部門) ④保税関係業務の電文(INQ型) ⑤EXC型電文(保税部門関係)	5個
パターン2 (B倉庫会社) A蔵置場 B蔵置場 C蔵置場	EXC型電文を各蔵置場ごとにそれぞれ別の受信用メールボックスに格納したい。 ①INQ型電文(A、B、C蔵置場) ②EXC型電文(A蔵置場) ③EXC型電文(B蔵置場) ④EXC型電文(C蔵置場)	4個
パターン3 (C船会社) 東京港 横浜港	電文分割される電文及び漢字が出力される電文を、それぞれ別の受信用メールボックスに格納したい。 ①電文分割の電文(東京港、横浜港) ②漢字出力の電文(東京港、横浜港) ③その他のINQ型電文、EXC型電文 (東京港、横浜港)	3個
パターン4 (D船会社) 東京港 横浜港 神戸港	入出港届関係及び照会結果の電文を各港ごとに用意した受信用メールボックスに格納し、その他の電文は、1つの受信用メールボックスに格納する。 ①入出港届関係、照会結果の電文(INQ型) (東京港) ②入出港届関係、照会結果の電文(INQ型) (横浜港) ③入出港届関係、照会結果の電文(INQ型) (神戸港) ④その他の処理結果電文(INQ型)、EXC型電文 (東京港、横浜港、神戸港)	4個

(注) なお、上記利用者のニーズに応じた電文の振分け(宛先管理)は、宛先管理登録業務により利用者が行うこととなる。

3. 各INQ型電文及びEXC型電文を出力する宛先の受信用メールアドレス（具体例）

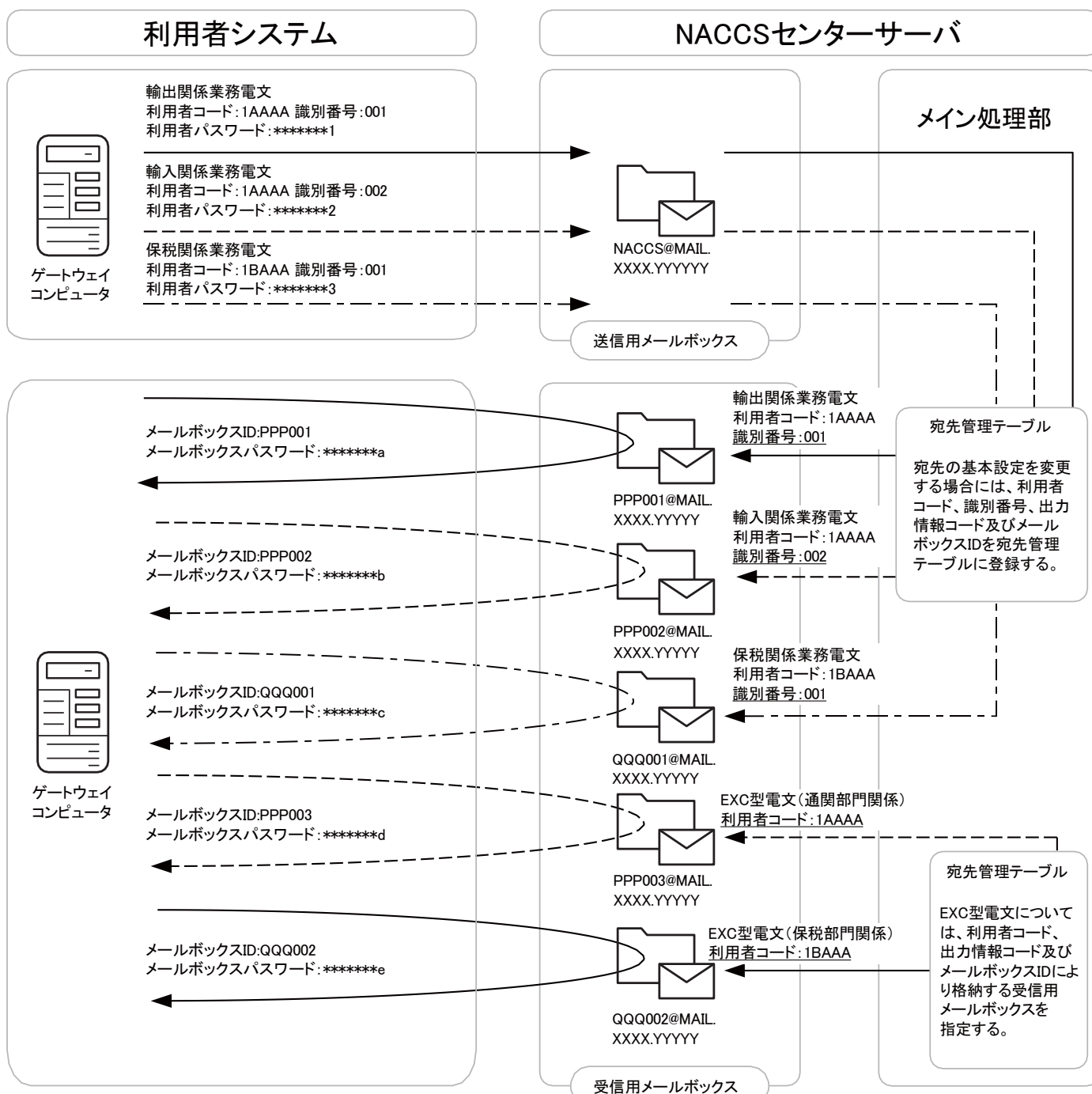
付表 5-2 各電文の格納先受信用メールアドレス

		電文の種類	各電文の格納先受信用メールアドレス
パターン1 (A社営業所)	通関部門 (1AAAA)	①輸出関係業務の電文(INQ型)	PPP001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		②輸入関係業務の電文(INQ型)	PPP002@MAIL. XXXX. YYYYYY
		③EXC型電文 (通関部門関係)	PPP003@MAIL. XXXX. YYYYYY
	保税部門 (1BAAA)	④保税関係業務の電文(INQ型)	QQQ001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		⑤EXC型電文 (保税部門関係)	QQQ002@MAIL. XXXX. YYYYYY
パターン2 (B倉庫会社)	A蔵置場 (1ABBB)	①INQ型電文 (A、B、C蔵置場)	RRR001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		②EXC型電文 (A蔵置場)	RRR002@MAIL. XXXX. YYYYYY
	B蔵置場 (1BBBB)	③EXC型電文 (B蔵置場)	SSS001@MAIL. XXXX. YYYYYY
	C蔵置場 (1CBBB)	④EXC型電文 (C蔵置場)	TTT001@MAIL. XXXX. YYYYYY
パターン3 (C船会社) (1ACCC)	東京港 横浜港	①電文分割の電文	UUU001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		②漢字出力の電文	UUU002@MAIL. XXXX. YYYYYY
		③その他のINQ型電文及び EXC型電文	UUU003@MAIL. XXXX. YYYYYY
パターン4 (D船会社) (1ADDD)	東京港	①入出港届関係の電文及び 照会結果の電文 (東京港) (INQ型)	UUU001@MAIL. XXXX. YYYYYY
	横浜港	②入出港届関係の電文及び 照会結果の電文 (横浜港) (INQ型)	UUU002@MAIL. XXXX. YYYYYY
	神戸港	③入出港届関係の電文及び 照会結果の電文 (神戸港) (INQ型)	UUU003@MAIL. XXXX. YYYYYY
	東京港 横浜港 神戸港	④その他の処理結果電文 (INQ型) 及び EXC型電文 (東京港、横浜港、神戸港)	UUU004@MAIL. XXXX. YYYYYY

(1) パターン1 (A社営業所のゲートウェイ接続の具体例)

付表 5-3 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン1)

		識別番号	出力情報電文	格納先受信用メールボックス
A社営業所	通関部門 (1AAAA)	001	①輸出関係業務の電文	PPP001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		002	②輸入関係業務の電文	PPP002@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	③EXC型電文 (通関部門関係)	PPP003@MAIL. XXXX. YYYYYY
A社営業所	保稅部門 (1BAAA)	001	④保稅関係業務の電文	QQQ001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	⑤EXC型電文 (保稅部門関係)	QQQ002@MAIL. XXXX. YYYYYY

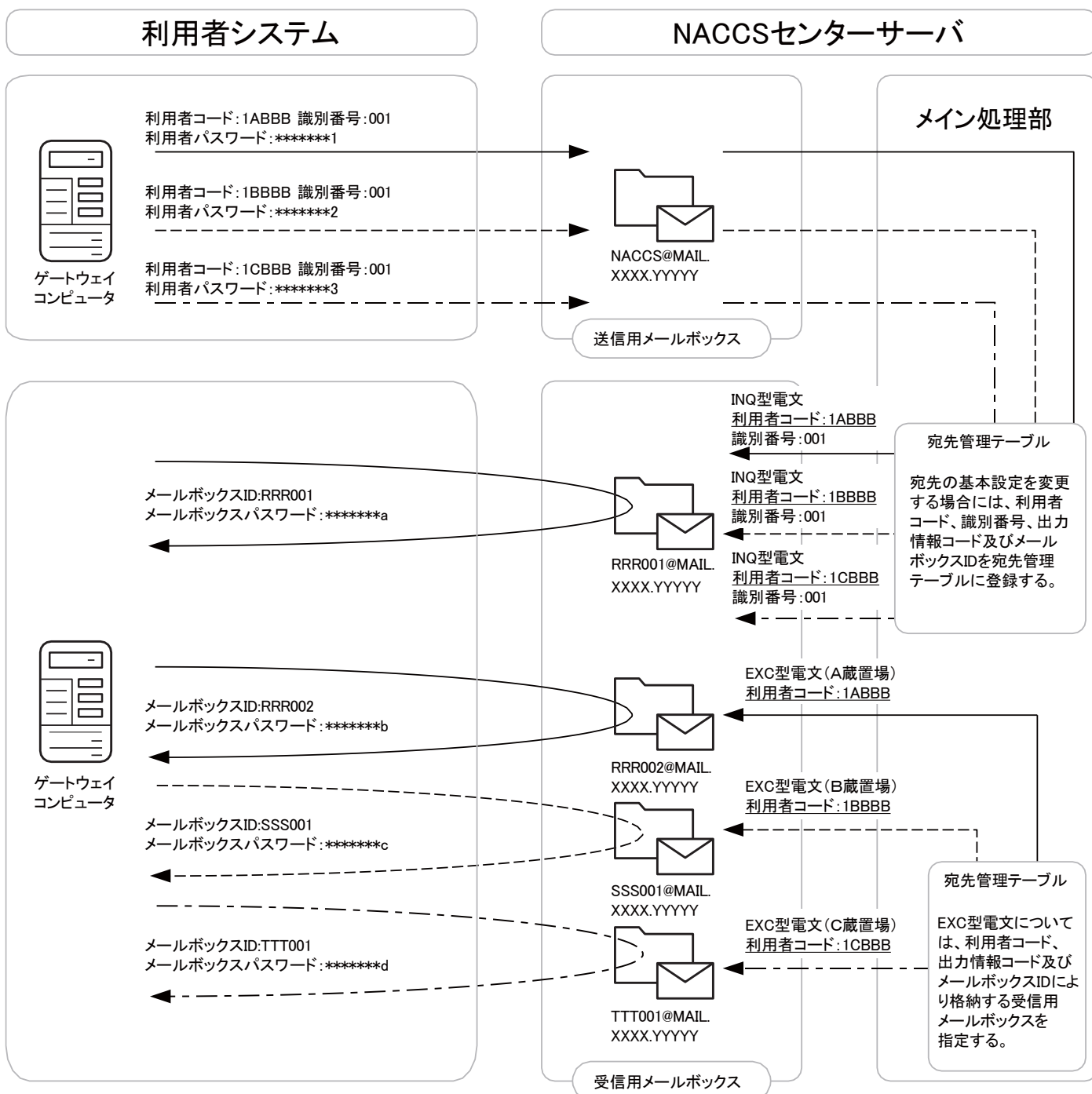


付図 5-1 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン1)

(2) パターン2 (B倉庫会社のゲートウェイ接続の具体例)

付表 5-4 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン2)

		識別番号	電文の種類	各電文の格納先受信用メールボックス
B 倉庫会社	A 蔵置場 (1ABBB)	001	①INQ 型電文	RRR001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	②EXC 型電文	RRR002@MAIL. XXXX. YYYYYY
	B 蔵置場 (1BBBB)	001	①INQ 型電文	RRR001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	③EXC 型電文	SSS001@MAIL. XXXX. YYYYYY
	C 蔵置場 (1CBBB)	001	①INQ 型電文	RRR001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	④EXC 型電文	TTT001@MAIL. XXXX. YYYYYY

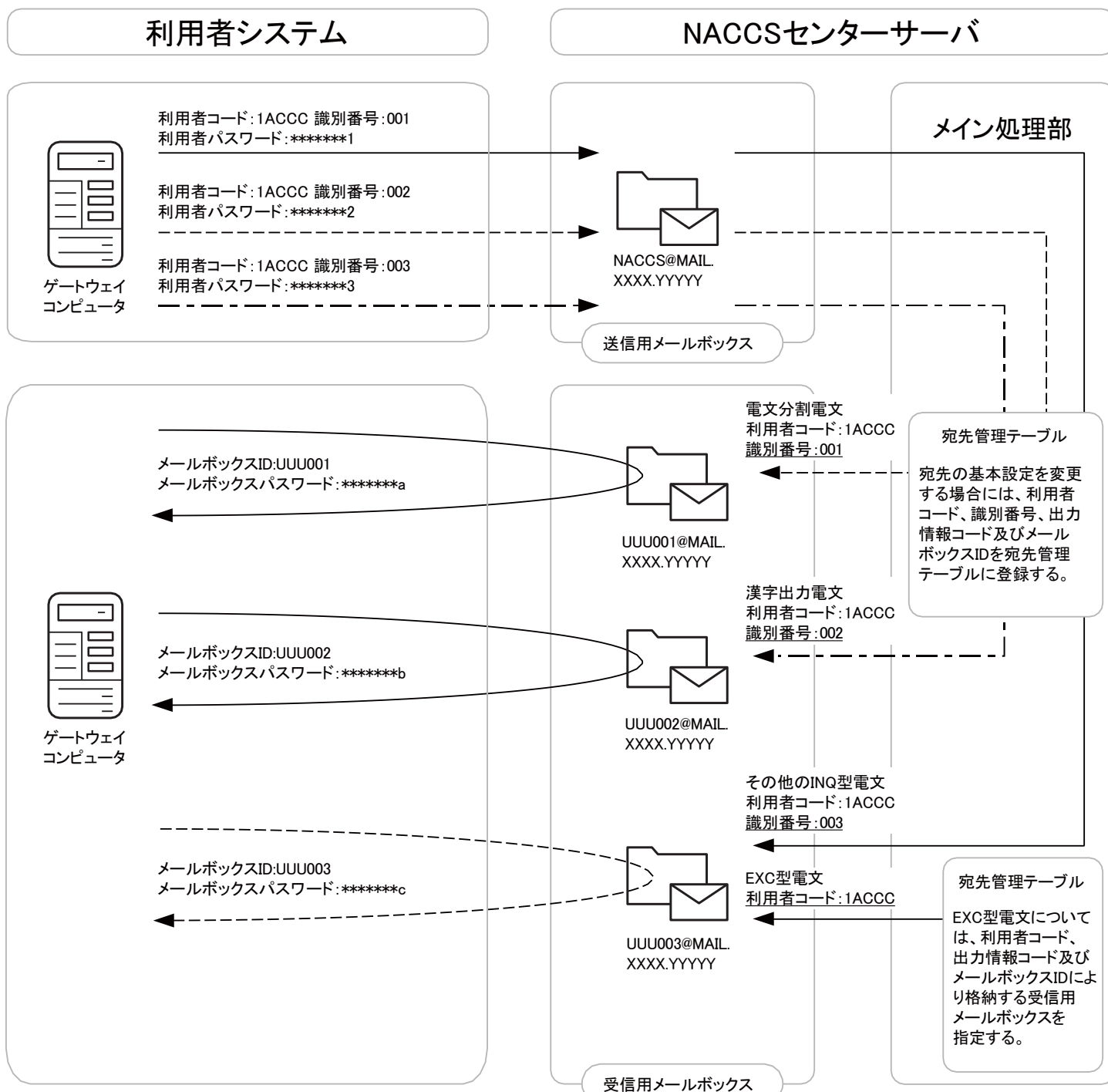


付図 5-2 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン2)

(3) パターン3 (C船会社のゲートウェイ接続の例)

付表 5-5 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン3)

		識別番号	電文の種類	各電文の格納先受信用メールボックス
C船会社 (1ACCC)	東京港 横浜港	001	①電文分割電文	UUU001@MAIL. XXXX. YYYYYY
		002	②漢字出力電文	UUU002@MAIL. XXXX. YYYYYY
		003	③その他の INQ 型電文	UUU003@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	③EXC 型電文	UUU003@MAIL. XXXX. YYYYYY

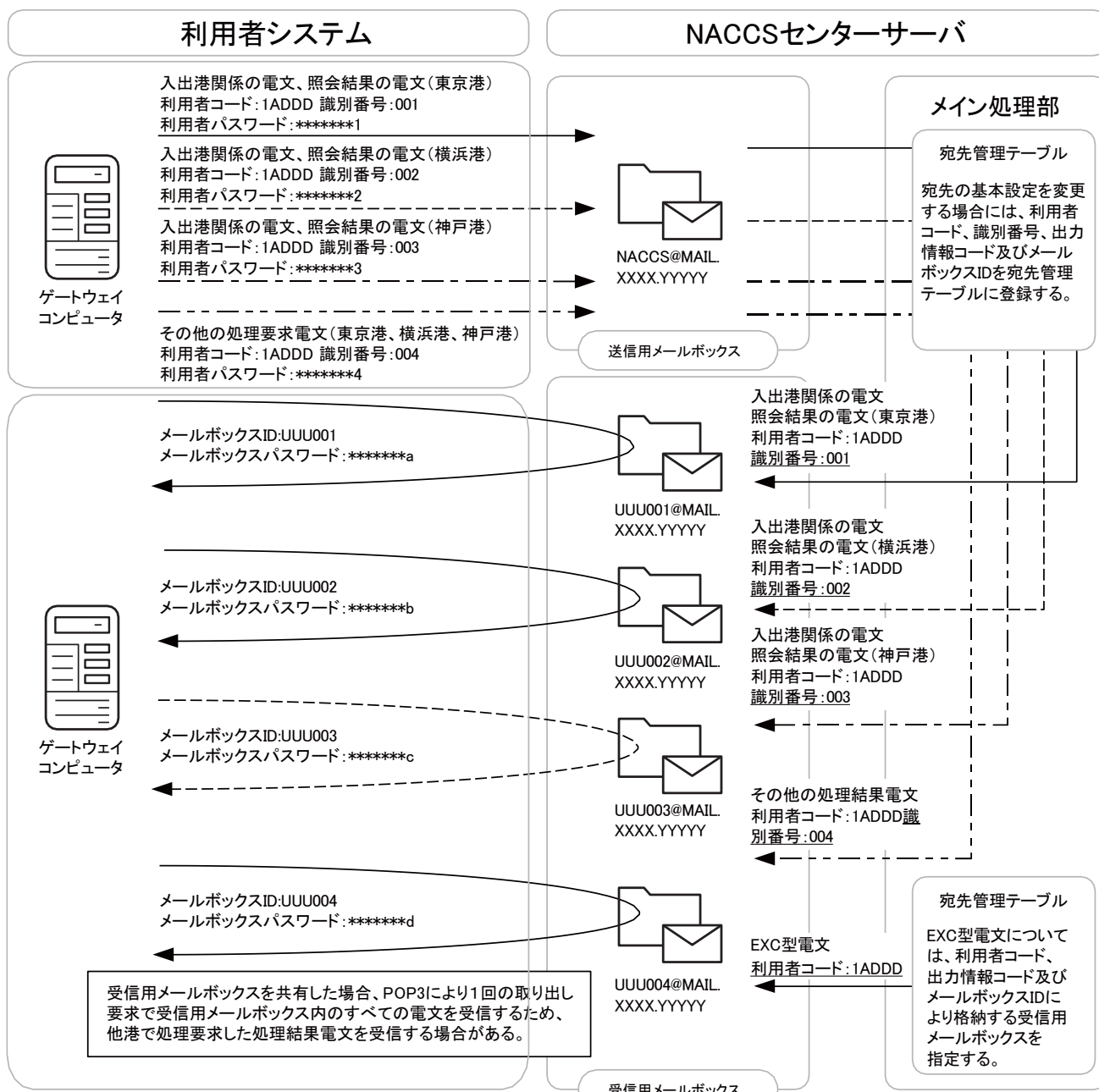


付図 5-3 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン3)

(4) パターン4 (D船会社のルータ接続の具体例)

付表 5-6 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン4)

		識別番号	電文の種類	各電文の格納先受信用メールボックス
D船会社 (1ADDD)	東京港	001	①入出港届関係の電文 照会結果の電文	UUU001@MAIL. XXXX. YYYYYY
	横浜港	002	②入出港届関係の電文 照会結果の電文	UUU002@MAIL. XXXX. YYYYYY
	神戸港	003	③入出港届関係の電文 照会結果の電文	UUU003@MAIL. XXXX. YYYYYY
	東京港 横浜港 神戸港	004	④その他の処理結果電 文(INQ型)	UUU004@MAIL. XXXX. YYYYYY
		不要	EXC型電文	



付図 5-4 格納先受信用メールボックスの具体例 (パターン4)